

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年9月24日(2010.9.24)

【公表番号】特表2010-500459(P2010-500459A)

【公表日】平成22年1月7日(2010.1.7)

【年通号数】公開・登録公報2010-001

【出願番号】特願2009-524105(P2009-524105)

【国際特許分類】

C 10 M 173/00 (2006.01)  
C 10 M 159/02 (2006.01)  
C 10 M 105/38 (2006.01)  
C 10 M 105/40 (2006.01)  
C 10 M 101/04 (2006.01)  
C 10 M 129/16 (2006.01)  
C 10 M 129/76 (2006.01)  
C 10 M 133/08 (2006.01)  
C 10 M 133/16 (2006.01)  
B 65 G 45/08 (2006.01)  
C 10 N 20/06 (2006.01)  
C 10 N 30/00 (2006.01)  
C 10 N 30/06 (2006.01)  
C 10 N 40/00 (2006.01)  
C 10 N 40/32 (2006.01)  
C 10 N 50/02 (2006.01)

【F I】

C 10 M 173/00  
C 10 M 159/02  
C 10 M 105/38  
C 10 M 105/40  
C 10 M 101/04  
C 10 M 129/16  
C 10 M 129/76  
C 10 M 133/08  
C 10 M 133/16  
B 65 G 45/08 Z  
C 10 N 20:06 Z  
C 10 N 30:00 Z  
C 10 N 30:06  
C 10 N 40:00 Z  
C 10 N 40:32  
C 10 N 50:02

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月4日(2010.8.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

乳化剤としてリン脂質が存在することを特徴とする、親油相及び水相を含む分散体の減摩剤としての使用。

**【請求項 2】**

分散体がエマルションの形態であることを特徴とする、請求項 1 に記載の使用。

**【請求項 3】**

分散体の親油相が、グリセロールと一般式 R-COOH (R は、5 ~ 21 個の炭素原子を含む、飽和若しくは不飽和、分岐鎖若しくは直鎖アルキル又はアルケニル基である) の脂肪酸との部分的なエステル及び / 又は完全なエステルを含むことを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の使用。

**【請求項 4】**

さらに、親油相がグリセロールを含むことを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 5】**

リン脂質として、レシチンが選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 6】**

分散体が 0.3 ~ 0.05 μm の平均液滴粒度を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 7】**

液滴が 400 nm 未満のザウター径  $d_{3;2}$  を有する分散体を使用することを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 8】**

親油相が分散体の 0.1 ~ 50 重量 % を占めることを特徴とする、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 9】**

リン脂質が分散体に 0.01 ~ 10 重量 % 存在することを特徴とする、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 10】**

分散体が 70 重量 % 以上の水を含むことを特徴とする、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 11】**

さらに、分散体にリン脂質だけでなく追加の乳化剤も存在することを特徴とする、請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 12】**

さらに、分散体が界面活性剤を含むことを特徴とする、請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 13】**

界面活性剤が非イオン性、カチオン性又は両性界面活性剤の群から選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 14】**

アニオン性界面活性剤及び / 又はせっけんを含まない分散体を使用することを特徴とする、請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 15】**

さらに、分散体が殺生剤、帯電防止剤、消泡剤、増粘剤、可溶化剤、ヒドロトロープ、pH 調整剤、腐食防止剤、ビルダー物質、錯化剤又は防腐剤の群から選択される追加成分を含むことを特徴とする、請求項 1 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の使用。

**【請求項 16】**

分散体が、プラスチック及び / 又は金属から構成されている面を有するコンベヤーシス

テムを減摩するのに使われることを特徴とする、請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 17】

分散体が、容器を輸送するコンベヤーシステムを減摩するのに使われることを特徴とする、請求項 1 ~ 16 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 18】

分散体を使用して、食品に直接接触することになるコンベヤーシステムを減摩することを特徴とする、請求項 1 ~ 17 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 19】

最初に水で分散体を希釈して、次に減摩剤として使用することを特徴とする、請求項 1 ~ 18 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 20】

希釈された組成物が 0.001 ~ 15 重量 % の請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の組成物を含むことを特徴とする、請求項 19 に記載の使用。

【請求項 21】

水で請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の組成物を希釈して、次にベルトコンベヤーに塗布することを特徴とする、ベルトコンベヤーを減摩する方法。